

# 雀宮地域学校園

雀宮中学校 雀宮中央小学校 雀宮南小学校 雀宮東小学校



**基礎・基本の確実な定着 ~国語科, 算数・数学科, 会話科における表現力の育成~**

## 学力向上分科会

＜9年間を系統的に捉えた基本的な学習習慣の定着＞

○家庭学習における「雀宮地域学校園統一基準」による学習習慣の定着化

- ・各小学校の保護者に、家庭学習時間の目安（「雀宮地域学校園統一基準」）についての文書を配布し、同一歩調で家庭学習を進めるようにした。
- ・「雀宮地域学校園統一基準」の掲示物を小学校・中学校の各教室に掲示し、意識付けを図った。

○「家庭学習ノート」を活用した基礎・基本の定着

- ・各校の家庭学習ノート・家庭学習への取り組み状況について話し合った。
- ・中学生の家庭学習ノートの各教科ごとのまとめ方の参考掲示物を、小学校に配布し、掲示した。
- ・小学校の良くまとめられたノートのコピーを、中学校の各学年学習室に掲示した。

(小学生の家庭学習ノート)

(中学生の家庭学習ノート)



## 国語科分科会

＜「読む力」「書く力」に繋がる音読、視写力の育成＞

○小学校の音読を中学校の速読に繋げる授業改善

- ・雀宮地域学校園の小学校で「音読カード」を統一するために、低・中・高学年の音読のめあてを検討した。これにより、中学校へ進学した際に各校で差が生じないように考える。また、中学校では、古典の授業や説明的文章を中心に「読む力」向上のための速読を指導する。



○共有化した視写教材の活用による学校園全体の視写力の向上

- ・雀宮地域学校園の小学校で視写のワークシート枠を共有化した。視写のプリントの活用についての情報交換を図った。中学校では、更に黒板や教科書を正確に速く写す指導の工夫を話し合い、指示の改善に取り組んだ。

## 算数・数学科分科会

＜「計算力」「問題解決力」の育成＞

○計算週間の設定による計算練習の実施と「検定カード」の作成検討

- ・小・中学校での日課の違いなどにより、共通で計算週間を設定することは難しかった。
- ・「検定カード」としては、雀宮地域学校園「百ます計算」を作成することを決めた。

学年に応じた内容等を何度も検討し、共通のわくで統一化し、作成した。

○生徒の個人差に応じた指導カリキュラムの検討

- ・算数・数学の基本となる計算力に焦点を当てて検討した。今年度作成した「百



ます計算」では、個人差に応じて目標時間を設定することで、個に応じた達成感や成就感を味わうことができ、学習意欲へつながると考えた。

○学習内容や指導方法の共有化

- ・乗り入れ授業を通して、小学校での学習内容や指導方法を知り、中学校での指導に生かすことができた。

**会話科分科会**

<英会話の時間における言語活動 communication activity の提案>

○研究方法

- ・「英会話の時間」の中で、小学生にとって分かりにくい単元はどこなのかを話し合う。
- ・中学校の英語科教員が、小学生でも分かりやすく、楽しめる言語活動 communication activity を考え、提案する。

○実施内容

- ・小学校 4 年生・時数 11~13 時間目の単元名「家族・友達」で扱うサザエさん一家は、児童にとって分かりにくいのではないかという意見が出された。例えば、タラちゃんにとって、カツオくんは叔父にあたる。
- ・中学 1 年生・要項番号 60 の単元名「Lesson5 Our New Friend From India」の中で扱う家族を表す英単語を習うため、同じ教材を使うことで地域学校園の生徒はスパイラルに学習することができるのではないかと考えた。

・言語活動「サザエさんポーカール」を提案

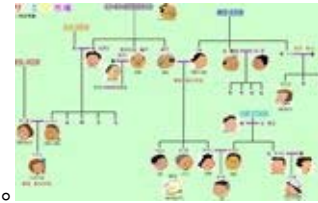
小学 4 年生・要項番号 (11~13) (3 時間扱いの 1 時間目)

<導入> 家族関係を表す英語を聞いて、確認する。

<活動 1> 右図を生徒に提示

<活動 2> サザエさんクイズに答える (サザエさんから見て、誰にあたるのか)

<活動 3> サザエさんポーカールを行う。持ちカードが全て同じ顔の絵になるようにする。



<「ことばの時間」における百人一首の効果的な指導法の提案>

○研究方法

- ・百人一首の効果的な指導方法を探るため、まず年間指導計画で百人一首の時数を確認、各学年 2 時間扱い。
- ・地域学校園内で行われている実際のワークシートを検討 (雀宮東小・菅谷教諭より提供)
- ・百人一首に実際に取り組み、自然と覚えさせる教師のひと工夫を提案する。

○実施内容

<雀宮東小の取り組み・6 年生>

- ・五色百人一首の色ごとの和歌一覧を配布、「家庭での音読」や「お気に入りの一枚を見つけよう」と声掛け。
- ・「坊主めぐり」・絵札で遊ぶうちに、作者や和歌を覚えていく。
- ・「お気に入りの一枚」を覚えさせ、その作者や歌われている様子・情景を調べる。
- ・朝の会、帰りの会の短学活や雨で外遊びができない時を有効活用する。
- ・学級文庫に百人一首の本 (解説本、ドラえもん、ちびまるこちゃん等の学習漫画等) を置く。
- ・札の読み方の工夫・最初の 5 字で少し間を開け、上の句を読んでまた間を開け、札を覚えた児童が有利になるようにする。児童は、自然と覚えようと努力する傾向が見られた。

<雀宮中央小の取り組み・5 年生>

- ・「ことばの時間」2 時間の授業では、好きな歌を選んで紹介する活動を行った。
- ・それ以降、朝の時間 (15 分) や「ことばの時間」の開始 10 分間で、カルタ取りを行う。
- ・チーム戦とし、勝ち抜きで対戦相手を変えて行うことで、児童は意欲的に取り組んでいた。
- ・次第に、自主学習で百人一首の歌を書いたり、暗記したりする児童や、チームで練習する班も見られた。
- ・万葉表示や古文に対する抵抗感がなくなったように思える。



<雀宮中学校の取り組み・1 年生>

- ・「ことばの時間」初めの 2 時間で 100 首全てを音読。その中から好きな歌をいくつか選ばせ、視写させた。
- ・残り 3 時間は、五色百人一首を利用し、カルタ取りで親しませた。
- ・カルタ取りの前に「暗記の時間」を設けたり、対戦相手のレベルをそろえたりすることで、全員がそれぞれの力に応じて楽しむことができた。

**体力増強分科会**

<9 年間を見通した体力の向上>

○「検定カード」(水泳、縄跳び、柔軟性) の共有化

<<縄跳び検定>>

【小学校】

とびかた	難易度	とんだ回数					マスの合計	級
3重とび	☆☆☆☆	1	2	3	4	5	66~70	特
2重こうぎ	☆☆☆☆	1	5	10	20	30	57~65	1
後2重あや	☆☆☆☆	1	5	10	20	30	49~56	2
2重あや	☆☆☆☆	1	5	10	20	40	41~48	3
後2重とび	☆☆☆☆	1	5	10	20	40	35~41	4
2重とび	☆☆☆☆	1	5	20	40	60	31~35	5
サイドクロス (前後あや)	☆☆	1	5	20	40	60	26~30	6
後こうぎとび	☆☆☆	5	10	20	30	50	21~26	7

【中学校】

とびかた	難易度	とんだ回数					マスの合計	級
3重とび	☆☆☆☆	3	5	10	15	20	90~96	特
後2重こうぎ	☆☆☆☆	5	10	20	30	40	82~89	1
2重こうぎ	☆☆☆☆	5	10	20	30	40	73~81	2
後2重あや	☆☆☆☆	5	10	20	30	40	65~72	3
2重あや	☆☆☆☆	10	20	30	40	50	58~64	4
後2重とび	☆☆☆☆	10	20	30	40	60	49~57	5
2重とび	☆☆☆☆	10	20	40	60	80	41~48	6
後2重あや	☆☆☆☆	10	20	40	60	80	33~40	7
2重前後あや	☆☆☆☆	10	20	40	60	80	25~32	8
後2重あや	☆☆☆☆	10	20	30	40	50	16~24	9
前後あや	☆☆	10	20	50	60	80	8~15	10
後こうぎとび	☆☆☆	10	20	30	40	80	1~7	初



- ・脚力や持久力の向上を図るために縄跳びを小中で行うことになった。自己の体力にあった活動ができるように検定表を用いて行うこととした。
- ・なわとび検定に関しては、小・中ともに現在行っている途中なので、今後データがそろい次第分析する。

#### 《ドッジボール大会》

- ・新体カテストの結果より、投力の低下が顕著に表れていることから、各小学校と中学校でそれぞれドッジボール大会を開催することを企画した。積極的に休み時間などを使い、ドッジボールの練習をするように促して、ボールを投げる時間と量を増やすように働きかけた。



## 成果と課題

### 学力向上分科会

- 「地域学校園統一基準」を各小・中学校の教室に掲示し、小学校の保護者にプリントを配布することで、同一歩調で取り組もうという意識づけができた。
- 定着度調査や全国学力調査の結果を持ち寄り、各児童生徒の学力や学習状況について話し合った結果を、今後の指導・改善に役立てるように計画していきたい。

### 国語科分科会

- 雀宮地域学校園「音読カード」を作成し、各小学校での指導内容を統一し、中学校の速読の指導へつなげる工夫がなされた。
- 視写プリントを使用することで、視写力向上を図る話合いが円滑に進められた。今後、活用法について更なる情報交換をし、工夫・改善をしていく必要もある。
- 今後、書く力を向上させるための教材開発についても、話し合いを進めていく。

### 算数・数学科分科会

- 雀宮地域学校園「百ます計算」を作成した。作成を通して、小・中学校の学習内容や指導法について共通理解が図れた。
- 来年度は「百ます計算」のデータを共有化して各学校で実施できるよう、準備を進めたい。実施方法については検討が必要である。

### 会話科分科会

- 地域学校園内で実際に行われている百人一首のワークシートを検討し、児童が歌を自然と覚えられるような工夫や方法を提案し、各校で実践できた。
- 来年度も引き続き、会話科の指導案やワークシートを提供することで、学校園内の共有化を進めたい。

### 体力増強分科会

- 水泳検定表や縄跳び検定表などを小中で共有化することで、9年間の変遷をたどることができ、生徒の成長や体力の変化をみるのが可能になった。また、水泳は小学校の時と同じようにして検定を行うことができるので、自分のレベルにあった活動をすぐを選ぶことができ、スムーズに授業にはいることができた。
- 中学校ではドッジボール大会を実施する時期が難しく、なかなか練習時間をとることができなかつたので、再度計画をよく練り直したいと思う。また保健体育委員会などが働きかけを行うようにし、積極的に練習を行うように促していきたい。

